

06

行政サービスは、市税のほかに 市債(借金)によっても賄われています



市はなぜ市債の発行をするの？

学校などの公共施設を建てるために、多額のお金が必要ですが、その年度の予算だけを使った場合、施設は何年も使うのに、建設費を負担するのは、その時の市民だけになってしまい不公平が生まれますし、ほかの行政サービスに予算が回らなくなるなどの影響が出てしまいます。そのため、市債を発行して借入をし、将来の市民にも平等に負担をしてもらうようにしているのです。

それぞれに納税者となる時期が異なるので…



最初の年～
10年後の
税で負担



11年後～
20年後の
税で負担



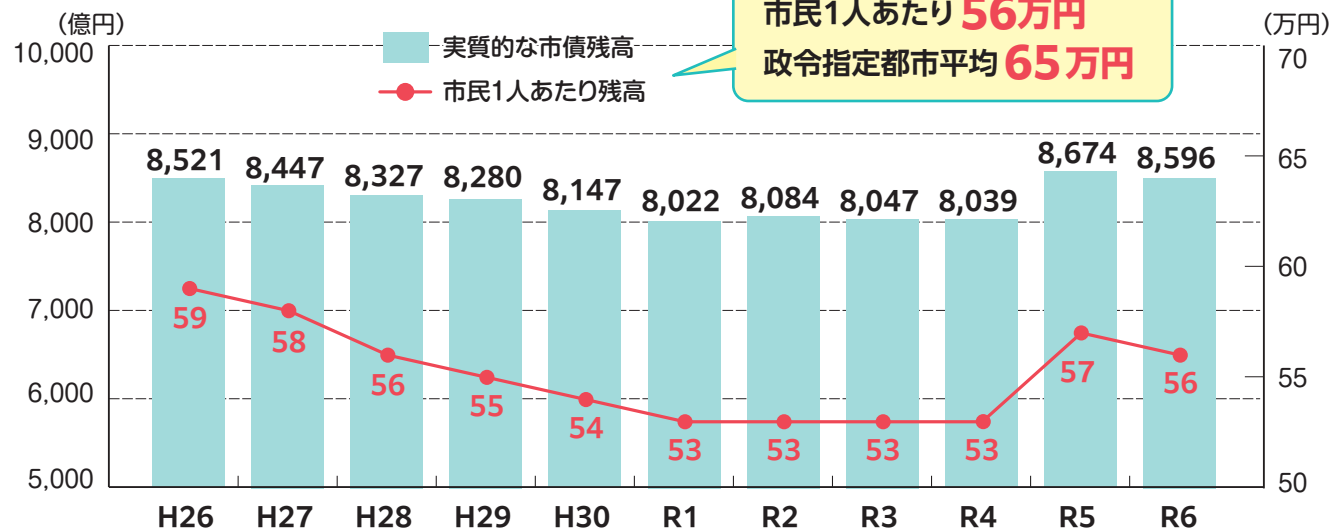
21年後～
30年後の
税で負担



どれくらい市債の残高があるの？

実質的な市債残高と 市民1人あたり残高の推移 (普通会計決算額)

全体の市債残高から積立(貯金)分を差し引いたものが「実質的な市債残高」です。この積立については次のページで説明しています。



市民1人あたり **56万円**
政令指定都市平均 **65万円**

💰 市債を返すお金はどうやって用意するの？

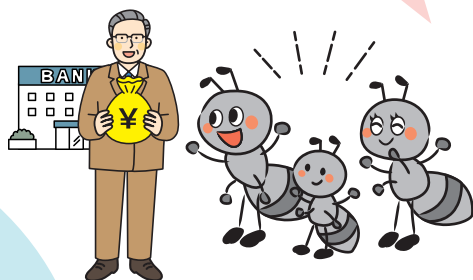
返済計画って 大事！



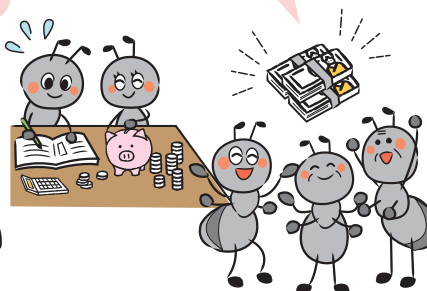
アリとキリギリスは銀行からお金を借りて、家を建てました。
銀行へは、30年後に一括で返す約束です。



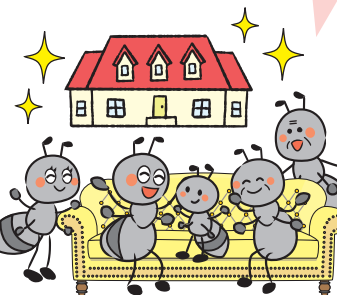
アリは、30年後の一括返済に備えて、毎年、返す分を貯金することにしました。



アリは計画通り貯金していたので返済できました。



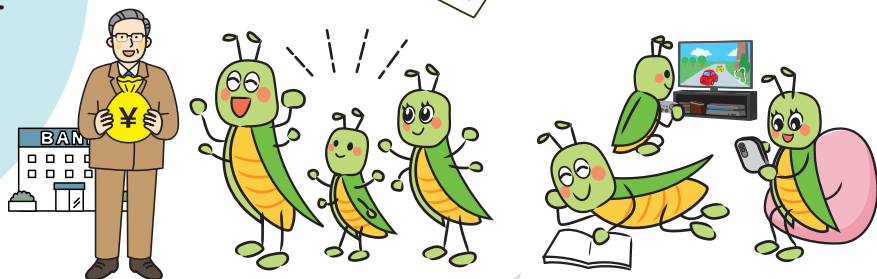
アリの家族は家の修繕も行い、みんなで未長く幸せに暮らしました。



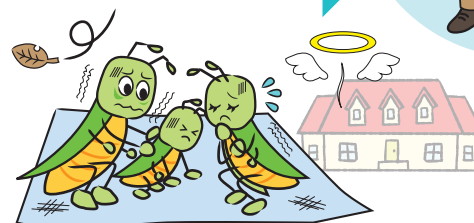
30年後返済の日が来ました



キリギリスは30年も先のことから、まだ大丈夫と考え貯金をせず、お金を使ってしまいます。



キリギリスは借金を返済できず、家にも住めなくなってしまいました。子どもには借金が残し、生活も苦しくなりました。



返済のために計画的に貯金しないと世代間の負担が不公平になったり、次の世代に負担を先送りすることになってしまいます。**計画に基づき、貯金していくことはとても重要です。**